

令和6年度 シラバス

教科	商業	科目	プログラミング	学年	第2学年	学 科 類 型	情報ビジネス科
単位数	3単位	教科書	プログラミング マクロ言語 (実教出版)				
副教材	全商情報処理検定1級プログラミング部門、2級対応アルゴリズム入門 (東京法令出版) 全商情報処理検定模擬試験問題集1級、2級 (実教出版)						

学習目標	<p>1 コンピュータを使ったデータ処理の仕組みについて理解します。</p> <p>2 プログラミングに関する知識と技術を習得します。</p> <p>3 体験的学習を通して創造力や論理的な思考力を身に付けます。</p> <p>4 ビジネスの諸活動において、情報を合理的に処理しコンピュータを効果的に活用する能力を習得します。</p>
------	--

キャリア教育の視点	<p>高度情報化社会を生き抜くために必要な情報活用能力の重要性を理解するとともに、情報社会に参画する上での望ましい態度について考察を深めます。ビジネスの諸活動と情報処理システムの関わりについて関心を持ち、データ処理の仕組みや役割の重要性を理解します。</p>
-----------	---

		学習計画及び内容		考 査
1 学 期	4月	第1章 情報システムとプログラミング 1節 情報システムの重要性 2節 プログラミング言語の種類と特徴 3節 プログラミングの手順	<p>企業における情報システムの重要性について理解し、情報システムを構築することで企業活動を改善している具体的な事例を参考に、これらのシステムに関連づけて分析します。</p> <p>手続き型言語やオブジェクト指向型言語などプログラム言語の種類、代表的なプログラム言語の記述方法などの特徴を学びます。また、プログラムや情報システムの開発を支援するソフトウェアについて考察する学習活動を行います。</p>	中間 考 査
	5月	第2章 アルゴリズム 1節 アルゴリズムの表現技法		
	6月	2節 基本的なアルゴリズム 3節 応用的なアルゴリズム		
	7月	第3章 プログラムと情報システムの開発 1節 情報システムの開発の手法		
2 学 期	8月	2節 プロジェクト管理 3節 プログラムによる企業活動の改善	<p>問題の分析からテストラン、デバックに至る一連のプログラミングの手法について学びます。</p> <p>情報システムの開発に関する手法や手続きの特徴、開発する情報システムの規模や内容などに応じて適切な手法を選択することの重要性など情報システムの開発に関する手法について考察します。</p>	中間 考 査
	9月	4節 情報システムの開発 5節 情報システムの評価と改善		
	10月	第4章 情報システムの開発演習 1節 Web ページ開発の基礎		
	11月	2節 スタイルシートの活用 3節 PHPの活用		
	12月	4節 データベースとの連携		
3 学 期	1月	第5章 ハードウェアとソフトウェア	<p>各種ソフトウェアを活用し、様々なプログラムやシステム、アプリケーションを作成しプレゼンします。</p>	学 年 末 考 査
	2月	1節 データの表現 2節 ハードウェアの機能と動作		
	3月	3節 ソフトウェアの体系と役割		

学習の方法	<p>マクロ言語の特徴を理解するとともに、データ処理に必要な一連のプログラミング手順を習得していきます。</p> <p>授業内容が専門的になるため、教科書・副教材を積極的に活用するよう心掛けます。</p> <p>プログラミング能力を養うため、積極的に学習に取り組むことが大切です。</p>
-------	--

評価の仕方	<p>知識・技術は、定期考査の成績と平常点で評価します。平常点は、検定の取得状況、小テスト、授業態度、課題や提出物などを総合的に評価します。</p> <p>思考・判断・表現は、習得した知識や技術を既存の知識や技術と関連付けたり、他の学習や生活の場面で活用したりすることができているか評価します。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度は、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながらよりよく学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価します。</p>
-------	--

備考	
----	--